

山の事故から命を守る

山岳救助活動と 安全登山のために

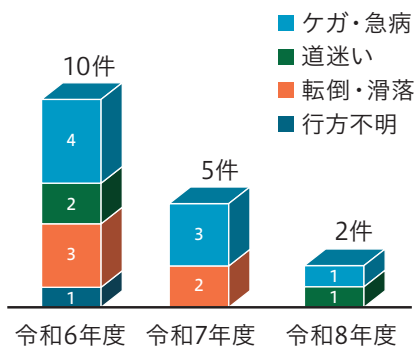
登山はレジャーとして多くの方に親しまれています。標高の高い山に何日もかけて登る方や、家族で日帰りのハイキングを楽しむ方などその楽しみ方は人それぞれ。

ただ、万が一、楽しいはずの登山で予期せぬことが起こった場合や助けを呼ぶことになった場合にはどうしたらよいでしょうか。

鈴鹿市近辺の山は標高1000m前後の山が多く、日帰りで登ることができません。しかし、標高が低いからといって安全という訳ではありません。実際にケガをして動けない方、道に迷って帰れなくなった方などから消防や警察に救助を求める通報が入っています。では、もしものとき、誰が救助に向かっているのでしょうか。そして、安全に登山を楽しむにはどうしたらよいのでしょうか。

救助へ向かう消防職員が詳しく教えてくれますので、ぜひご覧ください。

山の事故の 出動件数の内訳



(6月18日時点)

山岳救助活動

山では毎年、多くの事故が発生しています。鈴鹿市消防本部に山岳救助隊はありませんが、鈴峰分署と北分署に勤務する職員が救急や消火活動などの業務に加え、山岳救助を担当し、日々訓練を重ねています。

救助活動では、転倒・滑落・落石・急病など、山で起こるさまざまな事故に対応しています。急斜面や悪天候などの危険な環境の中で活動し、登山者の安全を支えています。



山岳救助を担当する消防職員



山で多い事故の例



転倒・滑落

登山道の段差やぬかるみ、急な下りでの転倒・滑落に注意。



道迷い

分岐点の見落としや、地図・コンパスの不使用による迷い。



落石・崩落

落石は、大きな岩が落ちてきてとても危険です。



急病・疲労

高山病や心疾患、脱水で、動けなくなることがあります。



もし遭難してしまったら

- 1 落ち着いて状況を把握する
(分かれればスマホなどで現在の緯度経度を把握する)
- 2 危険な場所から離れ、安全を確保する
- 3 助けを呼べる手段を探す
(携帯電話・登山者など)
- 4 警察・消防へ救助要請する
110 119
- 5 体力を温存し、目立つ場所で待機する



安全登山のポイント



登山アプリと地図の活用

登山アプリや地図などで現在地をこまめに確認し、迷わないようにしましょう。



計画を立てて登山届を提出

体力・技術に合った計画を。登山届は必ず提出しましょう。



天候の確認と判断

天気は急変します。最新情報を確認し、悪天候が予想される場合は中止・延期を。



装備と服装の準備

行動食(非常食)・モバイルバッテリー・雨具・応急処置用品など。



休憩管理と無理のない行動

こまめに休憩・水分補給を。体調がすぐれない時は無理をしない。

防災ヘリと連携した迅速な救助

【三重県防災航空隊】

山岳救助は山を歩いて救助に向かう部隊と空から捜索する部隊があります。別々に活動しているように見えますが、常に情報共有し、迅速な救助を行っています。

救助を要請するときに重要なポイントが2つありますので覚えておいてください。

一つ目は、現在いる位置情報を通報時に伝えてください。スマートフォンを持っている方は地図アプリなどで自分がいる位置の座標情報を表示することができ、その情報を伝えることで迅速な救助が行えます。



ヘリでの救助の様子
救助者を抱えヘリまで引き揚げる

二つ目は、ヘリコプターが近づいてきたらヘリコプターに向かってライトを照らしてください。遭難者からヘリコプターは見えますが、ヘリコプターからは遭難者が見えていないことがほとんどで、ライトを振ってもらおうと見つけやすくなります。懐中電灯などでもなくてもスマートフォンライトで十分です。



三重県防災航空隊
さきむら こうや
隊員 崎村 晃弥

山岳救助活動の最前線へ

身近な山に潜む転倒や道迷い、万が一の危機から命を救うために日々、訓練を積む



急斜面での搬送訓練



図上訓練

毎朝、紙に書かれた緯度経度の座標から、瞬時に地図上で通報者の位置を特定する訓練を実施しています。



資器材点検

救助現場での資器材の不備は二次災害に直結します。そのため、ロープのほつれや器具の作動状況を点検します。



山での訓練

登山中の転倒や滑落事故を想定した急斜面での訓練です。迅速に人が救助できるよう、ロープの使い方や、隊員同士の連携を確認します。

登山経験豊富な隊長からのメッセージ

山では、わずかな油断が命取りになります。実際に、現在地の確認を怠ったことによる「道迷い」や、スマートフォンバッテリー切れで連絡が取れなくなり「救助の遅れ」につながる「救助の遅れ」につながることが多くあります。また、疲れや焦り、気の緩みによる転倒・滑落で、命を落としたり、大ケガをしたりする事故は後を絶ちません。

山を愛する皆さんに、悲しい思いをしてほしくありません。万全の装備と余裕のある計画で、無理のない登山を楽しんでください。

無事に下山してもらおう
ことが一番の願いです。



中央消防署 鈴峰分署

消防第二グループリーダー 長谷川 哲夫

登山道の点検で 事故を未然に防ぐ

安全に登山できるように1年に2回、鈴鹿市が管轄する登山道を点検・整備しています。

過去の救助事案から、危険な箇所にはロープを設置したり、注意喚起の看板を設置したりしています。迷いやすい場所や、つまずきやすい場所にはテープを付けることで注意を促しています。そのほか、倒木の除去や弱ったロープの張り替えなど、安全性の維持向上に努めています。



ロープの点検



看板の設置



テープの設置

登山道で気を付ける場所



木の根が張り出し転倒しやすい。ピンクのテープで注意を促す。



滑落しやすいポイントには看板で注意喚起。



急斜面で落ち葉や岩が多く転落しやすい。進むときは慎重に。

登山を楽しむために

山岳救急救助事案の発生時に、安全・確実・迅速な活動が行えるよう、年間訓練計画に基づき、鈴峰分署を中心として各署や関係機関と連携した訓練を実施しています。

しかし、最も重要なのは山岳事故を未然に防ぐことです。登山を楽しまれる皆さんには、事前に無理のない登山計画を立て、登山ルートや下山予定時刻を確認するとともに、十分な装備の準備と健康管理を心掛けていただきたいと思えます。

一人一人の安全意識が事故防止につながります。安全対策を万全に行い、楽しい登山をお楽しみください。



中央消防署 鈴峰分署
分署長 打田 知玄

今回の特集に関するご意見・ご感想

中央消防署 鈴峰分署 ☎ 059-371-0119 ✉ reihibunsho@city.suzuka.lg.jp